

グリーンニュース 第38号

発行年月日 平成 20年 12月 22日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



【霧氷（武尊山にて）】

- 環境政策課からのお知らせ（2ページ）
- ドイツ環境問題講演会（3～5ページ）
- 省エネルギー雑感・ぐんま環境森林フェスティバルに参加して（6ページ）
- 丹生小での環境教室（7ページ）
- この頃思うこと・活動に寄せて（8ページ）
- リユース食器を使ってみませんか・砂漠の養鶏場は合理的？（9ページ）
- 「トクサ」って知っていますか・金融危機と環境危機（10ページ）
- レジ袋の有料化を推進しよう！（11ページ）
- 広報ア・ラ・カルト（12ページ）

県環境アドバイザー全体研修会（第1回）を開催（9/20土）

去る9/20（土）午後、県庁県民ビジターセンターにおきまして、日本テレビ気象キャスターの岩谷忠幸先生を招き、「お天気キャスターから見た地球温暖化問題」と題した第1回全体研修会を開催しました。当日は50名を超える環境アドバイザーの皆様にご出席いただき、岩谷先生の講演に熱心に耳を傾け、講師への積極的な質問もありました。

岩谷先生は、マスコミに席を置く立場からその影響力の大きさに触れ、啓発効果が大きく世の中を動かす力がある一方で、視聴率至上主義の弊害（センセーショナルな報道、キーワード報道等）を指摘し、「環境アドバイザーの皆さんにはマスコミ情報を鵜呑みにせず、自分で考える習慣をもってほしい。」とのアドバイスがありました。

第2回全体研修会も開催する予定です。日時や場所、研修内容等が決まり次第、別途お知らせしますので環境アドバイザーの皆様の積極的な参加をお待ちしています。



岩谷忠幸先生



クイズに答える参加者

第10回ぐんま環境&森林フェスティバルに参加（11/9日）

去
る

11/9（日）、高崎市もてなし広場におきまして、第10回ぐんま環境&森林フェスティバルが開催されました（主催：同フェスティバル実行委員会）。県も群馬県地球温暖化防止活動推進センター、及び環境カウンセラーズぐんまの皆さんと共同でブースを出展したほか、高崎駅前においても「ストップ地球温暖化！県民アクション」を配布するなど、地球温暖化防止の啓発をおこないました。

当日はあいにくの寒空でしたが、ブースを訪れたり県民アクションを手にとられた一般県民の皆さまにとって、地球温暖化問題を考えるキッカケになればと思います。



環境政策課ブース



エコムーブ号も出動



駅前啓発活動

ドイツ環境問題講演会

—ドイツ大使館アドリアン・ニチェ経済・環境担当一等書記官を迎えて—

ぐんま日独協会主催のドイツの環境問題の講演会が、2008年11月5日(水)ドイツ大使館のニチェ氏を迎えて、前橋市の群馬会館ホールで行われた。

演題は、ドイツの『経済成長』と『持続可能社会』“両立への目標と戦略”で、会場には環境アドバイザーはじめ熱心な一般県民約150名が参加していた。

講演はプロジェクターを使用し大変わかりやすいもので、参加者の多くは熱心にメモをとり、聴きいていた。講演終了後の質問タイムでは、鋭い質問が多くあり、終了が30分以上も延期せざるを得ない程、充実したものであった。以下その内容を記したい。

尚通訳は、ドイツ大使館の近藤あずさ氏が担当した。

A ドイツでも“ごみの山”の時代はあった。

ドイツも、1970年代から80年代までは、ごみが大量に発生し大きな社会問題となった。しかしドイツは、発生量中大きなウエイトを持つ包装ごみに対し、発生抑制に力をいれ、パッケージ費用をメーカー・販売業者に負担させる等で解決策を見出した。実際にドイツでは、練り歯磨きチューブは紙ケースを使っていない等、簡易包装を実践し、ごみを削減している。

B ドイツ国内及び国際的な環境保護・地球温暖化対策の歴史

- 1972年 ローマクラブが環境汚染の危険性の警告・魚の死、光化学スモッグ
- 1974年 ドイツ連邦環境局(UBA)の発足
- 1986年 チェルノブイリ原子力発電所事故を受け、環境省(BMU)の発足
- 1988年 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)発足・環境汚染の元凶は人
- 1992年 リオデジャネイロにおける地球サミット及び気候変動組条約の合意
- 1997年 京都議定書採択・CO₂削減の目標値設定
- 1999年 環境税設定と『10万軒の屋根』政策で補助事業の導入
- 2000年 国の温暖化対策として、『再生可能エネルギー法』(EEG)設定
 - ・・・風力・太陽光発電の電力は、固定価格で電力会社が購入する・・・
- 2006年 スターン報告書・・・今やらないと、将来もっとコストが高くなる・・・
- 2007年 同書に基づき、総合エネルギー・気候プログラム(IEKP)の策定
- 2009年 コペンハーゲン気候会議

C 国際会議の課題と目標

- 1 工業化により人間の活動を原因とする温室効果ガス(特に二酸化炭素)排出が増え、気温が著しく上昇。
- 2 気温の上昇は、異常気象をもたらす、特に海水面の上昇や旱魃を通じ生活を脅かす。
- 3 温暖化防止には、温室効果ガスの削減が必要。
- 4 京都議定書(1997年)

- (1) 181ヶ国が批准
- (2) 有効期間 2005年—2008年—2012年
- (3) 全体の温室効果ガスの排出を5.2%削減(1990年比)
- (4) EU全体での目標=8%の削減
 …ドイツの目標は21%…2007年時点で既に18%達成…
- (5) 2020年までの目標=EU全体で20%削減、ドイツは単独で40%
- (6) 2050年までの目標=EUとドイツで60から80%削減

D この目標を達成させるため『10万軒の屋根』政策(1999年)

- 1 優遇金利の融資で太陽光発電設備の設置を支援(個人・自営・中小企業)
- 2 目標=最大300メガワットの太陽光発電
- 3 発電分は、法定価格で電力業者が買取る・最終的には消費者に転嫁可…
- 4 2003年までに早くも目標達成
- 5 ドイツの太陽光発電市場は、4年の政策期間中に10倍成長
- 6 大きく貢献したのは、再生可能エネルギー法(EEG・2000 制定)
- 7 EEGの運用により、2006年にはCO2排出を4,500万トン回避
- 8 EEGの仕組みは、47ヶ国が活用
- 9 再生可能エネルギーの対象は
 - (1) 太陽エネルギー (2) 風力 (3) 地熱 (4) バイオマス (5) 水力
 - (6) 埋立地・下水処理場等で発生するガス

E メーゼブルク決議と統合エネルギー・気候プログラム

2007年8月、ドイツ政府は新たな温暖化防止対策を決定した

…温暖化防止対策において、ドイツは世界の手本であらねばならない…

- 1 温暖化防止対策の支出を増額(過去6億ユーロに対し2008年から25億ユーロ)
- 2 環境にやさしく効率も高い“熱電併給”(コージェネレーション)を7億5千ユーロをかけて大幅に拡大
- 3 省エネ型の家屋に改築・新築への優遇助成処置
- 4 発電におけるコージェネの利用割合を、現在の13%から2020年までに25~30%にupする
- 5 そのためには、2002年のコージェネ法の改正等、多数の新法の制定

F ドイツの総発電量2007年の内訳

- 1 石炭 47.92% 原子力 22.39% 再生可能エネルギー 13.78%
 天然ガス 11.85% その他 4.05%
- 2 再生可能エネルギーは、1990年の3.4%から今日は13.78%に成長
- 3 再生可能エネルギーの内訳は、風力 6.2% バイオマス 3.1%
 水力 3.2% 太陽光 0.5% ごみ焼却 0.5%である。

G 風力

- 1 ドイツの風力発電は産業規模、設置とも世界をリード
- 2 全世界の売り上げの40%はドイツの企業に由来(2005年)
- 3 風力発電量の約三分の一はドイツで、21万4,000人が風力発電に従事

H 太陽光

- 1 太陽光市場中、ドイツは47%を占めている
- 2 太陽光市場には5万人強の雇用

I 排出権取引

ドイツは企業にCO₂排出削減に向けたインセンティブを与え、世界的な温暖化防止を目指す

J 成果

- 1 温暖化効果ガス排出削減
- 2 新たな産業の創出
- 3 イノベーションの創出と効率向上
- 4 雇用の創出
- 5 エネルギーの輸入依存度低減



K 質問と回答

Q-1 バイオエタノールについて

A-1 食料になるものを、エネルギー資源に使用することに対して、ドイツは反対である。木材使用とか、諸々の研究を行っている

Q-2 原子力発電について

A-2 1 原子力発電のメリットとして、CO₂を出さない、コストが安い、資源が安定している等、があることは承知している

2 しかし、今日まだ放射性廃棄物の問題は解決していない。また将来どれだけ費用負担が発生するか、危険である。後日悔いを残す危険性すらある。

3 ドイツはシュレーダー、メルケル政権ともこのような危険なものに舵をきることは出来ない。再生エネルギーの推進に努力したい。

Q-3 日本で行われているごみ削減やマイバッグ運動(環境教育)について

A-3 身近な問題から導入を図ることは大切で、決して過少評価すべきではない

Q-4 CO₂削減のドイツの高い目標値に対し、実現の可能性・確信は

A-4 達成の可能性に疑問視するよりも、達成への方策、努力に力を入れることが大切である。ドイツは国を挙げて達成に努力する。

(代表 鈴木 克彬)

省エネルギー雑感

今年6月に全国省エネコンテストに入賞し、上毛新聞（環境月間特集）やぐんま広報11月号などに紹介されたおかげで省エネルギーについて講演する機会が増えました。最近感じていることを少し述べさせていただきます。

コンテストでは、意外なことに個人部門受賞者11名中8名が男性でした。私自身を含め、省エネルギーやエコライフをスポーツ感覚で記録更新を楽しみながら続けている人が男性に多いのではないかと思います。資源エネルギー庁長官賞を受賞した大阪の白岩さんと私は自転車で月300km目標に走行していることやハーフマラソンの持ちタイム、ソーラークッカーを手作りしたことなど、共通点が多く、すぐに意気投合しました。ただ、大きく違う点が一つ。白岩さんはホームページでご自身の取組を公開しています。私も彼に倣って今年度中にはホームページを開設したいと思っています。

「地球温暖化の主原因は二酸化炭素ではない」とか、「地球は今後寒冷化に向かう」というようないわゆる「地球温暖化懐疑説」に基づく書籍も出版されています。その説の当否は別として、どちらにしても省エネルギーによって化石燃料の消費を削減することは、二酸化炭素だけでなく硫酸化物や窒素酸化物などの大気汚染物質の排出を減らすことでもあります。また、貴重なエネルギー資源の枯渇を少しでも遅らせ、子孫に受け渡していくことにもつながります。また、何より光熱費の節約により「エコ貯金」を貯めることにもつながります。私は論争の行方に注目しつつも、今後とも省エネルギーを自信と意欲を持って継続していくつもりです。

（監査 片亀 光）

ぐんま環境・森林フェスティバルに参加して

今回で第10回を迎えたフェスティバルも昨年迄の県庁前広場から高崎市の「ふれあい広場」に会場を移して、少々寒さを感じるなか元気な装いで催しものステージから流れる和太鼓の演奏が合図で開始されました。出展52団体の関係者をはじめ、来場者も多数参集され、気持ちのよいスタートでありました。

環境アドバイザー連絡協議会は2つのテントで、菜種油搾りの実演、お絵書きコーナー（来場者に無地の袋を渡して、それに絵柄を書き込んで貰いマイバッグを作り頒布）、レジ袋有料化のPR等、各地域からの協力者の参加で盛り上げました。



自然環境部会担当の菜種絞りでは、テントの裏側での干した菜種に混入している屑をフルイとウチワで飛ばす係りの大奮闘や、慣れない機械に慎重な仲間たち、それぞれ笑顔を混ぜながら油搾りを実演、良く乾燥した種から1/3が油に、2/3が油槽の原料として採れ、その場で肥料として無料で配布し好評を受けました。15時のフィナーレ迄無事に楽しく過ごせた有意義な一日でありました。

（自然環境部会 宮崎 亮二）

丹生小での環境教室



一年ほど前より高学年を対象に環境の話をしたいと学校側に申し入れをしていました。

昨年の12月に学校の計らいにて、6年生に環境について話をする機会を頂き実施しました。これまでの地球の平均気温は約15度であったが、地球温暖化がどうしておきるのか？温暖化の原因は種々あるが、温室効果ガスが増えてきたことが問題であり、特に化石燃料の燃焼で発生する二酸化炭素ガス(CO₂)は急速に増大している。

温室効果ガスで地球が厚手の布団を被せられた様になって気温が上昇してきている。それによって地球上にもたらす影響は、世界の屋根と言われているアルプスや他の高い山々の氷河が年々溶解したり、北極圏の氷が解けて北欧より太平洋に船舶が航行可能となってきている。雪や氷が溶ける事により海水面が上昇して、オセアニア地域の島々では海水により土地が削られている。大潮の時には家の中まで海水が流れ込む。井戸は海水が入り飲み水として利用出来ない。又畑は塩害で農作物が作れない等で環境難民が発生している。

温暖化による異常気象の発生や動植物の生態系の変化などで、農作物の産地の北上など、また感染症等も増えることが予想される。このまま温暖化が進めば群馬県は亜熱帯地域になる可能性もある。

温暖化防止の基本は先ず、CO₂の削減にあるので私達も身近な所の出来ることから実行しましょう。例えば、ガソリンを燃やす車は出来るだけ乗らない(歩きや、自転車、公共交通機関の利用)、石油やガスを出来るだけ使わない。他にも消費電力の節約【エアコンの冷暖房の温度設定の配慮、待機電力のカットで、エコタップを使用、電灯の白熱球から蛍光電球に、冷蔵庫の扉の内側にはカーテンを付ける、夏期はよしずや緑の日除け(ゴーヤ・朝顔・糸瓜等)の利用など】が各家庭で実行されれば電気消費量は大幅に節減できる。省エネは省マネーに繋がるので、皆のお小遣いが増えるかもね？

樹木は光合成でCO₂を吸収する。その場合の例として杉の成木(50年生)で人間一人が年間呼吸に必要な数は23本、自家用車1台(1人で10km年間1万km)160本、標準家庭1世帯当たり年間の生活の中で460本、が必要となる。

こんな説明の後、「解決!地球温暖化」のCDを見せ、イギリスの小学生の温暖化防止の取り組みについてクイズを交えて進めました。この授業の中でCDでのクイズが子供達は盛り上がった。終了後全生徒より感想文が出された中で、冷蔵庫のカーテン・植栽による日除け・待機電力カット等の取り組みの記入があり、又人間の呼吸に杉の木が23本必要な事に関心を持ったようです。

(富岡地区 書記 吉田 孝)

この頃思うこと

洞爺湖サミットの中心議題は地球温暖化防止であった。しかし、肝心の具体策は見出されないまま終了した。地球レベルがそうなのだから、私たちは一体何をしたら良いか迷うのも不思議ではない。

地球温暖化防止、二酸化炭素削減といっても、裏腹なのが現実である。今夏のように熱帯夜が続くとエアコンなしでは寝られなくなる。無理して寝ようとすれば熱中症で命を落としかねない。命と引き換えに地球温暖化防止等とはいってられない。車に乗るのを控えましょうといっても公共交通機関が発達している都会なら、それも出来るが群馬のような車社会では、つい車に乗ってしまう。いろいろな矛盾を抱えながらの地球温暖化防止である。化石燃料は早晚底をつくだろうし、新エネルギーも取りざたされているが、遅々として進まない。結局、私たちに出来るのはエアコンの温度を微調整する、こまめに電気のスイッチを切る、ごみを増やさない、エコドライブをするといった基本にたち返ったことの積み重ねが大きな力になると思う。



今夏、北京でオリンピックが開かれた。いろいろと取りざたされた大会だが懸念されていた大気汚染による被害はなかったように思う。車を徹底的に排除して行った北京の空が澄んで見えた。それにしてもあの巨大な聖火と盛大な花火をCGにしていたら、地球温暖化防止に幾分とも貢献し、世界中から賞賛されたに違いない。

(藤岡地区 書記 辰身 武昭)

活動によせて

環境への関心は、各地における環境問題への提起もあったが、18年前千葉県習志野市谷津干潟を守る1人の活動家による渾身の清掃活動に強く感銘を受けたからである。上半身まで泥水に浸かりながら荒れた干潟を元の美しい野鳥や水鳥が飛来し、豊富な魚貝類が生息する自然に恵まれた環境に戻したいという一途な活動が人々を共感させ、活動人数を増やしながらかつて更なる飛躍的な活動へと発展した。干潟も水質の浄化に伴い魚介類の生息や野鳥水鳥の飛来が増え自然生態も向上し、希少生息地が認められ、1988年国指定谷津鳥獣保護区に指定され、1993年6月10日にラムサール条約登録地にも登録された。この経緯は世界的にも高く評価され各地の環境保護活動を目指す人々に強い感銘を与え、活動の重要性を顕著に示す標となるものとなった。

群馬も自然が豊かな県である。環境の変化により動植物の絶滅危惧種も増えつつある。自然を守るには、自然の中に心身を解放しながら五感を研ぎ澄まし、家族で触れ合いながら語らいを持って欲しい。家族の中から、また意を同じくする人々から環境の保護活動や保全の輪が広がってくると思う。わたしも個人活動は10年、環境学習車活動は5年目を迎えた。沢山の方々の御支援をいただきながらのライフワークとなった。「大気」「水」「ごみ」「地球温暖化」等の諸問題、まずは我が家から改善スタートとしたい。

(前橋地区 書記 鈴木 浩子)

リユース食器を使ってみませんか

粕川フラワーロードの会は河川敷へのごみの不法投棄を防止するために、長くにわたり粕川の土手に花を植える活動をしています。今年開催された「第25回全国都市緑化ぐんまフェア」では、サテライト会場「粕川流域花の道」の会場主催者として、緑化推進活動を積極的に行ってきました。さらに、昨年から食を扱うイベント会場において、ごみの散乱を防止し、資源の有効活用やゴミの減量を図ることを目的に、何度も繰り返し使える「リユース食器」の使用を推進しています。

イベントゴミの70%は、食べ物用に使用された使い捨ての空き容器といわれており、殆どがリサイクルされずに焼却されます。私どもは、行政の支援と企業の資金援助を得て、多くのボランティアさんの協力で、「リユース食器の貸出し」を県内で初めてスタートさせました。持ち帰り食品には使えませんが、昨年10月からの試行でこれまで、伊勢崎市内の40ヶ所で約19,000枚の貸出しを実施しました。

リユース食器の活用は、イベントゴミを減らすだけでなく、食器の返却・返却時のゴミの分別体験・デポジット体験などから、市民の環境意識の啓発手段として非常に有効なものだと確信できます。また、容器の安定性や返却所で「ごちそうさま」と感謝の言葉が発せられるなどリユース食器のメリットを感じています。

これまで2度の「リユース食器フォーラム」の開催を通じて、多くの方に呼び掛けをしてまいりましたが、皆さまの地元でのイベント時、リユース食器の使用をぜひトライしてみてください。当会では、貸出用各種リユース食器を多数所有していますので、その際はご相談下さい。市民とイベント主催者が3Rの意味を理解し、県内各地でエコイベントが実施されますよう、環境アドバイザーの皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(粕川フラワーロードの会 高橋 美律子)

砂漠の養鶏場は合理的？

先日、アルゼンチン、ブラジル、ペルーと旅行してきました。

ペルー共和国の首都リマでは、ゲリラに不法占拠された旧日本大使公邸や新しい大使館公邸も見に行きました。新しい公邸は非常にセキュリティの強固な建物でした。古い公邸は、現在壊されて塀だけが残っていましたが、土地は売りに出したが売れないとのことでした。

リマを離れると砂漠には荒れはてた家が沢山ありました。屋根のない家もかなりあり、そんな家が売買されているとのことでした。雨の少ない砂漠では、これでもいいのでしょうか。

砂漠のことでユニークに感じたのは、砂漠の養鶏場でした。

砂漠に全長200mぐらいの鶏小屋をいくつか作り、鶏にとうもろこしやアンチョビを与えて成長させて出荷する。

出荷が終わると小屋を壊して1、2年間、太陽に晒し、天然消毒してトリインフルエンザを防止するそうです。

新たな養鶏場は別の離れたところに作って飼育する。

こうすることで、トリインフルエンザが防止でき、薬剤を使用して殺菌・消毒するよりも経費がかからず、安全で卵や肉もおいしいそうです。

広大、過酷な砂漠の環境をうまく活用しているわけで、なるほどと思いましたね。



(高崎市 瀬間 勝利)

「トクサ」って知っていますか

トクサ(砥草)芯削り草とも言うそうです。「それは昔、刀を研いだんだよ」と言う人もいました。私が開いているみちくさ塾に来てくれた、竹とんぼを作るおじいちゃんが教えてくれました。「竹の汚いところは、この砥草でこすりなさい。そしてこれは何でも磨けるんですよ。流しやトイレも綺麗になるよ」と言うのです。

早速流しを磨いてみると本当に綺麗になる。ではお風呂はとお風呂に入るとき持ち込んだ。どんな磨き粉や洗剤でも落ちなくて諦めていた、風呂のタブのざらざらが取れるのです。鏡をこすってみたら恥ずかしいほど自分が写ります。そして極めつきはトイレの縁裏のあのザラザラが無くなりスベスベしてきたのです。それから私はお勝手の窓の所の花瓶に砥草をさして置くことにしました。

洗剤や磨き粉を使う事は浄化槽や川や色々な所を汚す結果になります。昔の人の知恵をもう一度見直してみるのも良いかなと思いました。

(伊勢崎地区 書記 金井 拓美)



金融危機と環境危機

先の全体研修会「お天気キャスターから見た地球温暖化問題」の講演会の最終段で講師は「世界中の人が日本人と同じ生活をすれば地球は2.4個も必要です」のエコロジカル・フットプリントを掲げ締め繰りました。一方、WWFの2008年版レポートでは今や世界の経済規模は地球資源の再生循環能力を30%超えての状態にあるようです。

人間の営みがこのままの状態が続けば地球資源の枯渇や資源再生も生態系の崩壊と相俟って地球環境の危機にと止まらず経済危機に至ることは必然なことでしょう。地球は1つしかないのですから。

これらの警鐘は1972年からローマクラブによる「成長の限界」で繰り返し鳴らされ、メドウズ等の著書「成長の限界」は更新されながら環境問題のバイブルとして様々な場で利用されているので目にされた方も多いと思います。限界は急成長がもたらすもの、限界を超えての持続はあり得ないこと等が論述されています。

この度の世界的な金融危機は金融システムの限界を超えての拡大・破綻に由来するもので、経済規模の縮小による今後の経済活動の低迷・後退が懸念されています。経済活動とエコ・フットプリントとは関連しますが、今回は前者の動向が後者に反映します。依って金融危機は環境危機を招くのでなく、むしろ景気後退は地球環境危機の到来を遅らせるので、環境保全への好機と思われます。しかし、それに期待するのは関東での大地震発生をチャンスとする知事さんと変わらぬスタンスとなってしまうので、フードマイレージ、自給自足、環境調和、持続循環型社会を目指す地道な自分たちで出来る活動を続けましょう。

(広報部会 野村 武彦)

レジ袋の有料化を推進しよう！

地球環境負荷の低減は待ったなしの段階です

- ・そのためには一人ひとりのライフスタイルの見直しが必要です。
- ・一人の百歩より、百人の一步で。
- ・何もかもは出来なくとも、何かはきっと出来る。



ゴミを減らすために誰でもできること

- ①「もったいない」という気持ちを大切にする。
- ②ゴミを出さない、ゴミにならない買物の工夫をする。
- ③できるだけ長く物を大事に使う。修理して使う。

- ・ゴミはくらしが豊かになるのに比例して増えてきました。家庭ゴミの主流は容器包装類で素材はプラスチックのウェイトが高くなっています。捨てられるレジ袋もその一つです。

3R実践の買い物スタイルで社会を変えよう

- ・私たちは3R*を意識して環境問題に取り組み、実践・努力している人達が報われる社会を目指しています。
- ・買い物には買い物袋（マイバッグ）や買い物かご（マイバスケット）などを持参、過剰包装を断りましょう。
- ・私たちはムダなレジ袋の使用を減らし、マイバッグ、マイバスケット等での買い物を定着するためにレジ袋の有料化を提言します。

* 3R とは Reduce（リデュース＝ごみの量を減らすこと）、Reuse（リユース＝できるだけ繰り返し使う）、Recycle（リサイクル＝資源として再生利用する）の頭文字をとって3R（アール）といます。

群馬県環境アドバイザー連絡協議会

◎表紙写真

表紙の写真「霧氷(武尊山にて)」は田中和夫さん(高崎)撮影によるものです。

霧氷と樹氷の違いをご存知ですか? じつは樹氷は霧氷の一種で、共に氷点下の環境で過冷却の水滴、水蒸気が樹木その他に衝突して凍結もしくは昇華することで出来る自然現象としての着氷現象であり、白色~無色透明な氷層の総称が霧氷であり、普通、樹氷、粗氷、樹霜の3つに分類されるようです。また降雪の付着で樹木の原形が分からなくなるほど雪氷で覆われたものを樹氷、樹木の枝や葉の表面に凍りついた状態のものを霧氷と区別されることもありますが基本的には同じものです。

温暖化で霧氷が見られる時期や地域が急変することはないでしょうが、今年は台風の上陸ゼロでした。これは気候変動現象のはしりでしょうか?

◎環境アドバイザー登録者

配布された名簿によれば10月末時点で登録者は342名です。E-メールを申告しているのは内109名ですが、申告を控えている人を含めると約150名・40%以上がインターネットを利用可能な状態にあると推定されます。アドバイザー相互の連携を目的の「ぐんま環境アドバイザーネット」の運用を担当している広報部会としては登録者数増よりもホームページを意識される仲間の増加が励みとなります。

一方、100名近い増員に関らず連絡協議会全体の活動に参加される方は各専門部会も同様、減少傾向にあり憂慮せざるを得ません。各地区での活動に増員がプラスなっていれば結構ですが……。

◎レジ袋の有料化推進のチラシ

前ページのチラシは9月の役員会での決まりに基づき作成しました。先の「環境&森林フェスティバル」で来場者に配布しましたが今後、他の消費者団体等の賛同を得て広く呼びかけ展開する予定です。ご理解・ご協力をお願い致します。

今後の行事予定並びに行事報告はインターネット・ホームページ

「ぐんま環境アドバイザーネット」

<http://gadviser.hp.infoseek.co.jp> に適時、掲載されています。

行事予定・報告等の掲載を要望される方は下記のE-MAILアドレスに連絡ください。

gadviser@infoseek.jp

「グリーンニュース」のバックナンバーもホームページでご覧になれます。